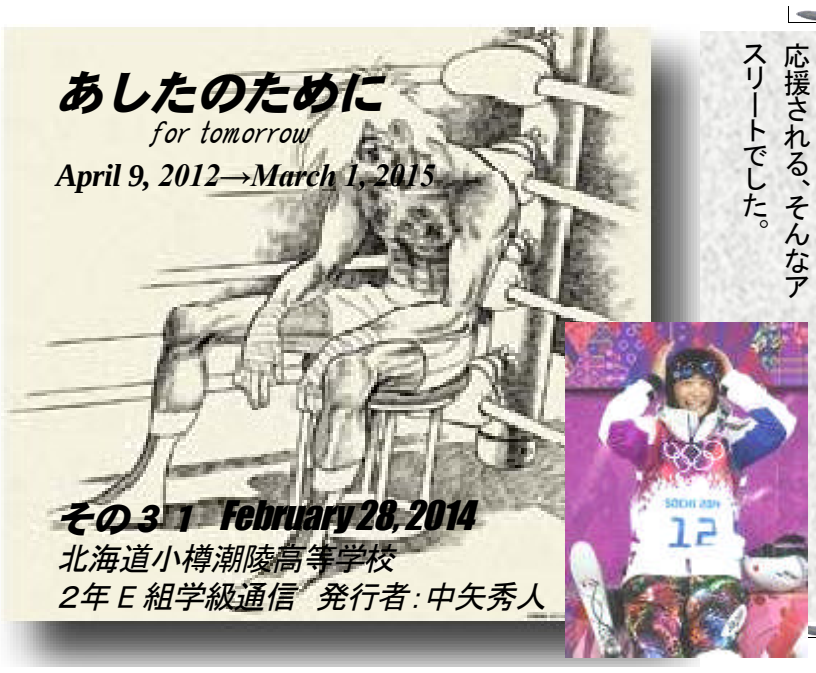


感受性を豊かに（六十六）

ソチ・オリンピック

心ならずも、じっくりオリンピックを観戦できる日々を過ごしてしまった。毎回順位を一つずつ上げ、今回も順位を上げればようやくメダルに手が届くところだった上村愛子選手は、残念ながら前回同様「四位」で、惜しくもメダルを手にすることができなかった。モーグルについても、今後の彼女の去就についても私は知らないが、気持ちのこもったオリンピック「ラスト・ラン」に見えた。

私もいつもやってしまうのだが、多くの選手は滑り終えたあと、スキー板で「ガチャッ」ともう一方の板を外していたのだが、彼女はきちんとストックを使って外していた。私にはワックスマンはいないが、彼女が一本滑るためには、ワックスマンを始め、多くの人の存在があるはずで、彼女がスキーを大切に扱う姿を通して、サポートしてくれている周囲への感謝や配慮を忘れていないと感じた。

缶コーヒー「ボス」の少し前のCMに、「この国には『愛される』という勝ち方もある」というのがあった。彼女は自らの名が示す通り、皆から愛され、応援される、そんなアスリートでした。

入院生活

その他、オリンピックで印象に残るアスリートといえば、スキー・ジャンプの「レジェンド」こと葛西紀明選手だ。7度目の出場にして初めて個人のメダルを手にしたあとのインタビューで、「次の目標ができました」と、語っていた。「いったい、この人は何歳まで飛ぶのだろう」。骨は年齢を裏切らないから、くれぐれも気をつけて競技を続けてもらいたい。個人でメダルを獲ったときには笑顔でメダルを受け取った葛西選手ではあったが、団体で銅メダルを獲ったときには、涙を浮かべていた。団体戦の持つ特有の一体感がそうさせたのかも知れないし、団体戦に出場した選手それぞれが、難病や怪我などのトラブルを抱えていたにも関わらず、それを乗り越えた達成感のようなものがあったからかも知れない。葛西選手にはいつまでも現役を続けてもらいたいという思いと同時に、競技力の向上のためには、団体戦のメンバーやそれ以外の若手の選手からの突き上げというか、葛西選手に「もう引退してもいいですよ」と世代交代の瞬間が来る必要はあると思う。スポーツの世界では、タイムや得点、相手との勝ち負けという形ではっきりと結果が出てしまう。我々はとかく、結果を見て物事を論じがちではあるが、インター・ハイや甲子園に出場することだって相当ながんばりが必要だから、オリンピックに出場している選手たちは、私たちの想像を越える鍛錬を積み重ねていることだろう。その目に見えない努力には大いに敬意を払いたい。

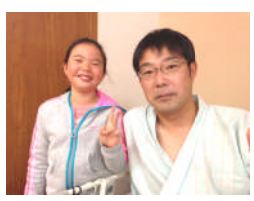
さて、ここからが本題になるのでしょうか？2月10日から20日までの11日間、済生会小樽病院に入院しておりました。これまで大きな怪我や病気もなく、元気なのが「当たり前」の生活を送っていたので、多少思い上がりもあったのかも知れません。そんな頭を思いっきりぶっ叩かれたような心境です。まだ君たちは若いから、入院したことがない人も多いことでしょう。今後も入院するようなことがなければいいのですが、そううまくいくとは限りません。私の入院生活について報告します。



2月12日の午後3時半過ぎに手術を受けましたが、手術前日の9時までは物を食べることができて、当日の朝9時までは水分を取ることができました。お昼ぐらいから点滴を始め、ストレッチャーに乗せられて手術室へ向かいました。手術室は、よくテレビで見るまんまでした。私の緊張感は高まっていきましたが、手術室の看護師さんは、普通に世間話をしています。きっとこれは看護師さんたちの知恵なのでしょう。こちらは初めての手術ということもあって、かなり緊張していましたが、そのおかげで多少緊張もほぐれたと思います。部活動の大会でも受験でも、「いざ勝負！」という時には、何か特別なことをしてしまうことも多いのですが、それがかえって緊張感を高めてしまうのかも知れません。普段通りに過ごす方がよいようです。その後、麻酔の際、腰に「チクッ」と痛みを感じた以外は、足を触られて麻酔の効きを確認し、マスクを当てられ2度ほど息を吸い込んだあとは記憶がなく、手術は終わっていました。

病室に戻り、程なく空腹を感じたのですが、麻酔がある程度切れるまでは飲食できないということで、耐えていました。腹は減っていましたが、このときまではまだ幸福であったことを後に知ることになります。ある程度麻酔が切れて、食事の許可が出たあとは、妻が買ってくれた弁当をむさぼるように食べました。さらにポテトチップスまで食べて空腹を満たしたあと、手術後の痛みがやってきました。知り合いの入院・手術のスペシャリストから、「手術後の痛みは我慢しなくてよい」とレクチャーを受けていたので、看護師を呼び、痛み止めをもらって服用しましたが、それでも痛みは治まりません。さらに座薬も使いましたが、心臓が鼓動する度にそれに合わせて左足首が痛む状態でした。この痛みはいつまで続くのだろうと不安を抱いたまま、ほぼ眠れずに朝を迎えました。四人部屋に入院していたのですが、そのうち二人はすでに手術を終えていて、「今日1日過ぎれば痛みはだいぶ取れるよ」と教えてくれました。その言葉どおり、痛み止めは必要としたものの、翌日以降確実に痛みは減っていき、結果的には、かなり元気のいい入院患者になってしまいました。

私もいつまでもアスリートのつもりで調子に乗っていましたが、もう何かを心掛けなければ健康で過ごせない年齢に達してしまったのでしょう。病院の食事についてはいろいろ先入観がありましたが、満足でした。ただ、何日か食べているとどうしても「飽き」が来ます。毎日飽きのこない食事を作ってくれる妻には感謝しました。こんなことがなくても感謝しておくべきでした。



今回、君たちにも先生方にもご迷惑をおかけしました。海よりも深く反省しております。今後はこのようなことがないよう気をつけます。

３／４～７の時間割

	3/3 Mon	3/4 Tue	3/5 Wed	3/6 Thu	3/7 Fri
1	3/1	数学Ⅱ	学	採	数B
2	の	(100)	力	点	物／生
3	振	保健(40)	検	日	英Ⅱ
4	替	入試会場	査		情報
5	休	設　営			数Ⅱ
6	業				現代文
7					古文

※　３／４（火）までに、上靴以外の私物をすべて持ち帰って下さい。

※　３／4（火）の午後以降3／6（木）までは、入試関連業務のため、校内に立ち入ることはできません。